

国際常民文化研究機構 第3回国際シンポジウム
共通テーマ「“カラダ” が語る人類文化—形質から文化まで—」

□ プ ロ グ ラ ム □

第1日 12月10日（土）10:00～17:00

国際シンポジウム

テーマ「非文字資料としての身体^{カラダ} —“カラダ” で読む・表す・伝える—」

開会の辞および趣旨説明 10:00－10:20

開会の辞 中島 三千男（神奈川大学学長）

趣旨説明 佐野 賢治（神奈川大学日本常民文化研究所長）

基調講演 10:20－11:50

1. 「日本人はるかな旅—身体に刻された跡—」

馬場 悠男 国立科学博物館

10:20－11:05

2. 「自然と共生するカラダ—修験道儀礼と身体感覚—」

宮家 準 慶應義塾大学

11:05－11:50

□昼休：11:50～12:50（60分）

Session 1 “カラダ” で読む —身体のウチとソト— 12:50－13:50

1-1. 「皮膚の色が意味するもの—人種と人種主義—」

竹沢 泰子 京都大学人文科学研究所

12:50－13:20

1-2. 「骨を読む」

坂上 和弘 国立科学博物館

13:20－13:50

Session 2 “カラダ” で表す —心意と身振り— 13:50－14:50

2-1. 「身体での共創表現」 西 洋子 東洋英和女学院大学

13:50－14:20

2-2. 「身体とレトリック」 尼ヶ崎 彬 学習院女子大学

14:20－14:50

□休憩：14:50～15:05（15分）

Session 3 “カラダ” で伝える —精神と肉体— 15:05－16:05

3-1. 「異界をのぞく呪的なしぐさ」

常光 徹 国立歴史民俗博物館

15:05－15:35

3-2. 「神霊の道であるシャマンの身体」

クネヒト・ペトロ 愛知学院大学

15:35－16:05

□休憩：16:05～16:15（10分）

質疑応答及び総括 16:15－17:00

司会・進行 西海 賢二（東京家政学院大学・機構運営委員）

渡邊 欣雄（中部大学・機構運営委員）

国際常民文化研究機構 第3回国際シンポジウム

共通テーマ「“カラダ”が語る人類文化—形質から文化まで—」

□ プ ロ グ ラ ム □

第2日 12月11日（日）10:00～17:20

共同研究「アジア祭祀芸能の比較研究」グループ 公開研究会

テーマ「海の民俗伝承と祭祀儀礼 —船による神の来往と身体表現—」

開会の辞および趣旨説明

10:00 - 10:20

開会の辞 佐野 賢治（神奈川大学日本常民文化研究所長）

趣旨説明 野村 伸一（慶應義塾大学・機構共同研究グループ代表）

パフォーマンス

10:20 - 11:50

韓国巫女による龍王祭・刀上舞・神将舞の上演

【コーディネーター】田 耕旭 高麗大（韓国）

【解説】洪 泰漢 高麗大（韓国）

□昼休：11:50～12:40（50分）

Session 1 研究発表

12:40 - 16:05

1-1. 「韓国西海岸における送船の種類とその意味化の過程」

李 京燁 国立木浦大（韓国）

12:40 - 13:35

1-2. 「済州島巫俗のヨンガムノリと船送り」

姜 昭全 国立済州大 耽羅文化研究所（韓国）

13:35 - 14:30

□昼休：14:30～14:40（10分）

1-3. 「南台湾和瘟送船儀式の実際状況とその身体技法・パフォーマンスの意味」

謝 聰輝 国立台湾師範大（台湾）

14:40 - 15:35

1-4. 「タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の船送り」

吉野 晃 東京学芸大

15:35 - 16:05

□昼休：16:05～16:15（10分）

Session 2 総合討論「アジアの身体表現の比較研究をめぐって」

16:15 - 17:05

2-1. コメント発表（各5分）

16:15 - 16:35

2-1-1. 研究発表 1-1. に対して

野村 伸一 慶應義塾大

2-1-2. 研究発表 1-2. に対して

金 良淑 東京大大学院人文社会系研究科博士課程

2-1-3. 研究発表 1-3. に対して

丸山 宏 筑波大

2-1-4. 研究発表 1-4. に対して

鈴木 正崇 慶應義塾大

2-2. 総合討論

16:35 - 17:05

上記以外の登壇者

金 容儀（全南大／韓国）、皆川 厚一（神田外語大）

総括

17:05 - 17:20

古家 信平（筑波大・機構運営委員）